

第3部 金がわかれば世界がみえる ~ 金融市場から商品市場、国際情勢まで ~



マーケットストラテジインスティテュート代表 亀井 幸一郎氏

大橋 ウクライナ上空でのマレーシア航空機の撃墜、イスラエルのガザ侵攻など、このところ立て続けに地政学的リスクが起きたことにより、金が急騰する場面がありましたね。

亀井 米国の量的緩和(QE)が終わること、今後、米国の金利が上昇すると、金利がつかない金の魅力は失われ、中には1オンス1000ドル割れといった悲観的な見方もありました。しかし2014年に入り、ロシアのクリミア併合、南シナ海での中国の国際法を無視した活動、さらにイラクでの宗派間対立、イスラエルとハマスの対峙など誰もが予想しなかった地政学的リスクが急浮上することになりました。これらの事態に金は反応し上昇を見せました。起きていたことは、単なる「有事」ではなく東西冷戦後に訪れた「国際秩序の再編」ということで、金市場には一過性ではなく折に触れ刺激材料となり続けると思います。

大橋 とはいえ米国の量的緩和は2014年10月に終了することになりました。このまま順当にいけば、金利が上昇するはずですが、なぜ金利が上がらないのでしょうか？

亀井 右の図表の米国の長期金利の推移をご覧ください。2013年に金価格が記録的な下げになった時期に、金利が急騰



フリーアナウンサー 大橋 ひろこ氏

しています。米長期金利とドル建て金価格は逆の動きをする傾向が強いですが、2014年は年始から米長期金利は下げ基調にあいますが、この間の金価格の堅調地合いはこの点からも説明がつかず。

なぜ金利が上がらないのか。様々な要因が考えられますが、1つにはここに来て米国の財政赤字が減ったことで米国債の発行量も減っている需給要因があります。次に地政学的要因から安全資産としての米国債に資金が流れたこともあります。そして最近明らかになったのは、中国の大量買いで為替操作で買ったドルをそのまま米国債に回しているようです。

大橋 地政学的リスクの発生や金利上昇が思ったより起きていない状況であれば、もっと金が上がってもよいと思うのですがいかがでしょうか？

亀井 2013年は金ETFに880トンもの大量売りが出たことに象徴されるように、ファンドなど欧米の投資家が記録的な売りを出しました。米国の超緩和策の解消を先取りした動きでした。一方、買い向かったのがインドや中国などのアジア勢でした。買いの量は予想を遥かに超えるものでしたが、ファンドの売り攻勢に押し切られて金は下げました。欧米の投資家のスタンスは2014年に入

金価格の推移



米長期金利の推移(10年国債)



って変化が見られますが、全体のムードは、やはり利上げがあれば金は下がるとい見方です。それが上昇の鈍さに表れています。回復してはいるもの実は米

国景気に足取りに力強さは出ておらず、利上げはそう簡単にはできないと思います。中長期的に見て下がった金は買いたと考えています。

金の世界いまを読み解くためのバイブル 「急騰前の金(ゴールド)を買いなさい」 亀井幸一郎著、廣済堂出版 金を取り巻く歴史も踏まえながら、金の世界の今と未来をわかりやすく解説。日本の財政が行き詰まり、金融危機が起これば、急激な円安、株価下落をもたらす。円安は生活コストを上昇させ、見合った給料はもらえず、生活水準はどんどん下がる。円建て金価格は上昇するが、それ以上に悪い上昇だ。ユーロ圏、アメリカ、中国の最新動向から金価格の行方を予測、円安・株高に浮かれる日本の投資家に警鐘を鳴らす一冊。

当資料は、ゴールドニュース事務局がセミナーの様態を伝えることを目的に作成したものです。セミナーは投資判断の参考となる情報の提供を目的としています。実際に投資される場合の最終決定は、ご自身で行っていただくようお願い致します。各種情報の内容については万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。また、将来の予測はその結果を保証するものではありません。

TOKYO GOLD FESTIVAL 2014 視野を広げマクロな視点で考えるスピノフセミナー Vol.4 「変貌するブラジル、不変のゴールド」 開催日時: 2014年7月19日(土) 会場: 東京・大手町 / KDDIホール 協賛: 岡藤商事、日本フィナンシャルセキュリティーズ 後援: 東京商品取引所 主催: ゴールドフェスタ運営事務局

The Seminar Press

お問い合わせ先

キャピタル・エフ株式会社 ゴールドニュース事務局 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503 E-mail: goldnews.jp@gmail.com

The Seminar Press

2014年(平成26年) 7月26日発行 ゴールドニュース事務局 http://goldnews.jp/

協賛 岡藤商事 日本フィナンシャルセキュリティーズ 後援 東京商品取引所



激動する世界経済、注目マーケットの“明”と“暗”を知る 変貌するブラジル、不変のゴールド ~ 視野を広げてマクロな視点で考えるスピノフセミナー ~

リオ五輪へと続く“ブラジル”×円安時代“資産としての金”

異次元の金融緩和によるアベノミクスにより、円高から円安時代の到来で、将来のインフレ懸念が高まっています。

減価する円資産、インフレに備える資産防衛策として注目されているのが“ブラジル”と“金”。

先日、サッカーワールドカップが開催されたブラジルは、2016年にオリンピックも開催され、新興国の中でも経済成長が期待される“南米の巨人”として注目を集めています。

また相次ぐ地政学的リスクの表出で脚光を浴びているのが無国籍通貨として知られる金です。

ブラジルと金。双方の投資に対する“明”と“暗”について、2014年7月19日に行われたセミナーの様態を誌面でご紹介します。

ブラジル概観

Table with 2 columns: Category and Value. Includes data for国土面積, 首都, 民族, 宗教, 公用語, 人口, エネルギー自給率, 政体, 名目GDP, 1人あたりGDP, 経済成長率, 産業構造, 自動車国内販売, 物価上昇率, 失業率, 日本進出企業数, 在留邦人.



出所: 外務省など

GDP世界ランキング

Table with 3 columns: Rank, 2013年, 2030年. Shows Brazil's position relative to other major economies.

出所: IMF、日本経済団体連合会・21世紀政策研究所

